

社会医療法人博友会 広報誌

Hakuyukai - Dayori

博友会だより

医療・看護・介護を通して地域に貢献いたします

アルツハイマー型認知症は 家族や周囲のかかわり方で 症状が改善します

社会医療法人博友会 北の峰病院 精神科 平野 恭雄 医師

冬 [No.16]
2013年1月

ご自由に
お持ち帰りください



社会医療法人博友会は4つの施設で社会貢献しています



平岸病院

精神科・神経科・内科・神経内科・歯科・訪問看護
赤平市平岸新光町2丁目1番地
TEL: 0125-38-8331



北の峰病院

精神科・神経科
富良野市中御料2062番地
TEL: 0167-22-2011



介護老人保健施設博寿苑

入所・短期入所・通所リハビリテーション
赤平市平岸新光町2丁目4番地
TEL: 0125-37-2001



共同生活援助事業所グループホーム博友荘

入居による生活援助
赤平市平岸新光町4丁目34番地
TEL: 0125-37-2077



いきいき
健康生活



社会医療法人博友会
北の峰病院 精神科
平野 恭雄 医師

昭和 6 年 京都市生まれ
昭和 32 年 京都府立医科大学卒業
昭和 38 年 同大学院修了
昭和 40 年 京都第二日赤病院神経科
昭和 46 年 海辺の杜ホスピタル副院長
昭和 48 年 市立赤平総合病院精神科医長
平成 10 年 平岸病院
平成 14 年 北の峰病院
■資格
医学博士、精神保健指定医、精神科指導医、
精神科専門医、麻酔科標榜医

アルツハイマー型認知症は

家族や周囲の かかわり方で 症状が 改善します



「認知症になった本人は何もわからないから幸せだ」「家族が認知症になって恥ずかしい」という間違った認識を多くの人々が持っていた時代がありました。しかし、認知症は脳の病気であり、誰もがかかると可能性のあるものです。正しい知識を身に付け、認知症の人と適切にかかわっていきましょう。

認知症の患者さんは
「不安」「焦り」「戸惑い」を
感じています

認知症の主な症状として知られているのが「物忘れ」です。現在から過去にさかのぼり忘れていきます。今まで簡単にできていたことも、自分のことを言葉や態度で伝えることもできなくなり、孤独や当惑を感じています。

ところが、身近にいる家族は、いつもと違う様子や行動に驚き、否定し、説得し、ときには叱りつけます。本人は何で叱られたのかを忘れてしましますが、戸惑いや不安などの感情が心に強く残り、大きなストレスとなり心身に混乱をきたすようになります。

不可解な行動は病気の症状です。風邪をひいたら内科を受診し、お産をするときには産科へ行くように、認知症

認知症を 正しく理解しましょう



今、話したこと、
見たことを直後に忘れる

家族に迷惑をかけて申し
訳ないと思っている

総ての能力が低下しているのではなく
正常な部分と混在している

異常行動に対しての
理由付け、言い訳は上手である

失敗の連続で
自信を失っている

古い記憶が鮮明になり、
今のことのように思える

叱られた理由は記憶していないが
その時の恐怖感や挫折感には心に残る

周囲とのコミュニケーションが
とれずに孤独である

正常な行動と不可解な
行動が同時に存在する

になったら「精神科」を受診し、必要な治療を受けなくてはなりません。

認知症の原因を 確かめるために 早期の診断が大切です

認知症は大別すると、原因によって脳血管性とアルツハイマー型に分けられますが、両者の治療は全く異なりま

す。脳血管性は、脳の血流障害で脳への血流が低下することで発症し、適切な薬物治療によって症状は大きく改善します。

アルツハイマー型は、大脳に或る物質が沈着し、その結果、萎縮する病気です。原因は不明なことから、誰にでも効果が期待できる特效薬はありませんが、家族や周囲の方の接し方で症状が改善することが分かっています。

「物忘れ」での早期受診をおすすめするのは、その原因を早い段階で見極め、正しい治療を行うためです。家族の心構えや対応についても精神科では丁寧にアドバイスいたします。

ご家族に気になる症状があったら早めを受診しましょう。

家族が認知症になったら… 日常生活でのアドバイス

アルツハイマー型の認知症は、家族の接し方によって症状が安定します。間違った行動や不可解な行動をとっても否定や説得をせずに、ゆったりと笑顔で関わるのが大切です。



徘徊

うちへ帰りたいたい!

自宅にいるのに「うちへ帰る」と屋外へ

出てしまう場合は、可能な限り付き添い一緒に出かけてみましょう。制したり責めたりせず、ねぎらいの言葉をかけて、自宅へと誘導しましょう。



過食

ご飯を食べていない!

食事後に「食べていない」と要求される

ようになつたら、食後は食事以外に関心が向くよう、ピデオを見せたり、興味のある作業などに誘うようにします。



妄想

財布がない!

否定せずに一緒に探しましょう。家族が

先に見つけると「隠していた」と疑うので、本人自身が発見できるように誘導しましょう。日頃からものをしまう場所を把握しておきましょう。



排泄

トイレに失敗…

加齢に伴う生理的機能の低下によるもので、必ずしも認知症のせいではありません。大騒ぎせずに後始末を。

排泄のサインを見逃さず、トイレまで誘導することで失敗を防ぐことができます。



アルツハイマー型認知症には
家族の笑顔が良く効きます

いよいよ滝川市東町に2月開院! 博友会滝川メンタルクリニック

認知症やそれにつながる物忘れの相談を受け、専門的な診療を行います

精神・神経科
神経内科
心療内科



滝川市東町2丁目



地域ネット

平岸地域
住民生活支援の会
博寿苑で独居高齢者交流会
平岸連合町内会会長
菅原修一さん

地域と病院が協働で実現

平岸地域住民生活支援の会（会長・谷博平岸病院理事長）主催の第1回独居高齢者交流会が、10月28日に博寿苑で開催され、一人暮らしの高齢者ら16人がゲームや食事を一緒に楽しみました。



博寿苑で開催された交流会のようす



菅原会長

同会は平成21年5月に設立されたボランティアグループ。地域住民や民間企業・平岸病院関係者ら約20人が「平岸から孤独死を出さない」を合言葉に、雪かきや御用聞き、病院の送迎などを行ってきましたが、独居高齢者の交流会を開催したのは今回が初めて。メンバーが手分けして準備を進め、平岸病院は会場や食事の準備、送迎などを担当しました。

交流会を企画した平岸連合町内会の菅原修一会長は、「地域の独居高齢者が引きこもることなく地域社会と接点をもてるように、今後も交流会を定期的に開催し、地域で見守る仕組みを作りたいですね」と話しています。

参加者は、『参加して良かった。ひさしぶりに知り合いに会えた』『おしゃべりしながら、大勢で食べるご飯は美味しい』と話し、会場に笑顔があふれました。

院内には、風景ばかりではなくもっといろいろな人の絵をたくさん展示したいですね

皆さんも
楽しみませんか？

油絵

平岸病院 内科
小川幹雄医師

平岸病院の廊下やロビーには、小川幹雄医師の油絵作品が合わせて20点ほど展示してあります。「私の好きな風景を描いています。ご覧いただけると嬉しいです」。

絵筆を握るきっかけを作ったのは中学時代の恩師。「木の幹を立体的に描こうと工夫したことを褒められて、樹木を好んで描くようになりました」。高校時代は美術部に所属。医師となつてからは、仕事に追われて絵筆を置いていました。

「ところが、20年前に美術仲間4人と旭川で『4人展』を開催

することに。1枚、2枚じゃカッコつかないと、帰宅後と休日に夢中で筆を走らせました。6枚のカンバスを並べて同時に描き進め、2週間で仕上げました。パワーがあつたんですね。題材は身近にある自然やそのデフォルメですが、特に傷んだオンコの木に想いを寄せて描きました。4人展はその後も毎年開催し10回を数えました。

「今は仕事が忙しく、絵筆を握る時間を作れずにはいますが、空知川の流域には描きたいと思う魅力的な風景がたくさんあります。そのうち、また描き始めるかもしれません。いろいろな人の絵を院内に展示したいですね。創作活動は、人間のエネルギーを引き出すような気がしています」。



作品「空知川と十勝岳遠望」の前で
「私の作品にはM.Ogawaとサインがあります」